

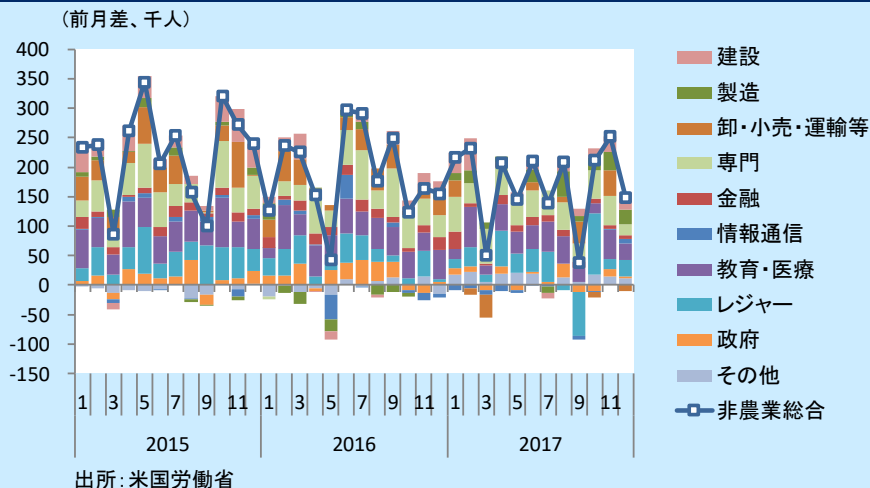
米国：雇用統計（2017年12月）

一前月から伸びが低下も、幅広い業種で雇用者が増加一

MRI Daily Economic Points

January 10, 2018

図表1 非農業部門雇用者数

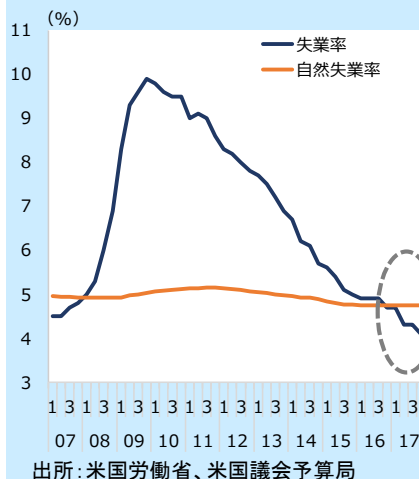


評価ポイント

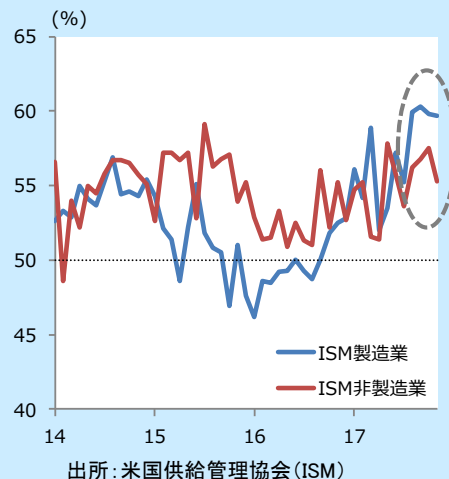
今回の結果

- 17年12月の非農業部門雇用者数は、前月差+14.8万人増と、前月(同+25.2万人増)から伸びが低下したが、失業率の悪化回避に必要なペース(同+13万人程度)を上回った。
- 内訳をみると、建設業(同+3.0万人)や製造業(同+2.5万人)、レジャー(同+2.9万人)、教育・医療(同+2.8万人)など、幅広い業種で雇用者が増加した。一方で、年末商戦が好調だったにもかかわらず、小売業(同▲2.0万人)は大幅に減少した。
- 12月の失業率は4.1%と前月(4.1%)から変更なし。失業率は、自然失業率(長期的均衡水準)を大きく下回る状態が続いている(図表2)。労働参加率も62.7%と前月(62.7%)から変更なし。
- 時間当たり平均賃金は、前年比+2.3%と前月(同+2.3%)から変更なし。賃金の伸びは、依然として鈍い。

図表2 失業率と自然失業率



図表3 企業の雇用スタンス



基調判断と今後の流れ

- 良好な雇用環境が続いている。企業の雇用スタンスは堅調な内需を背景に底堅く推移している(図表3)。12月は雇用者数の増加幅が前月から縮小したものの、17年第4四半期の増加ペースは月平均+20.4万人と、依然として高い水準を維持した。
- 先行きも良好な雇用環境は続くと思込む。失業率が昨秋以来、横ばいで推移している一方で、失業者1人当たりの求人数は2001年1月以来の高水準に達している。今後は、低い失業率のなか、人手不足感が賃金上昇の加速につながる可能性が高い。
- 下振れ要因は、①現在、割高な米国株価が調整局面に突入する場合や、②通商政策に関して保護主義的な動きが加速し、輸出が抑制される場合などに、企業の雇用スタンスが慎重化し、雇用環境に悪影響が及ぶことも考えられる。